

(別紙)中部運輸局二次評価結果 令和2年2月28日付け中運交企第92号通知

自治体・協議会名	蒲郡市地域公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・地区支線バスのGTFS化対応や、東三河地区が連携した小学生50円バスの実施について評価します。

期待する取組

- ・地元協議会組織と連携した交通空白地対策が進展することを期待します。
- ・利用が減少している路線バスの利用改善策については、大型複合リゾート施設の影響を除いた利用状況分析や、同施設との連携を視野に入れた取組に期待します。
- ・名鉄西尾・蒲郡線の利用促進活動を引き続き取り組まれることを期待します。

中部様式1

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

蒲郡市地域公共交通会議

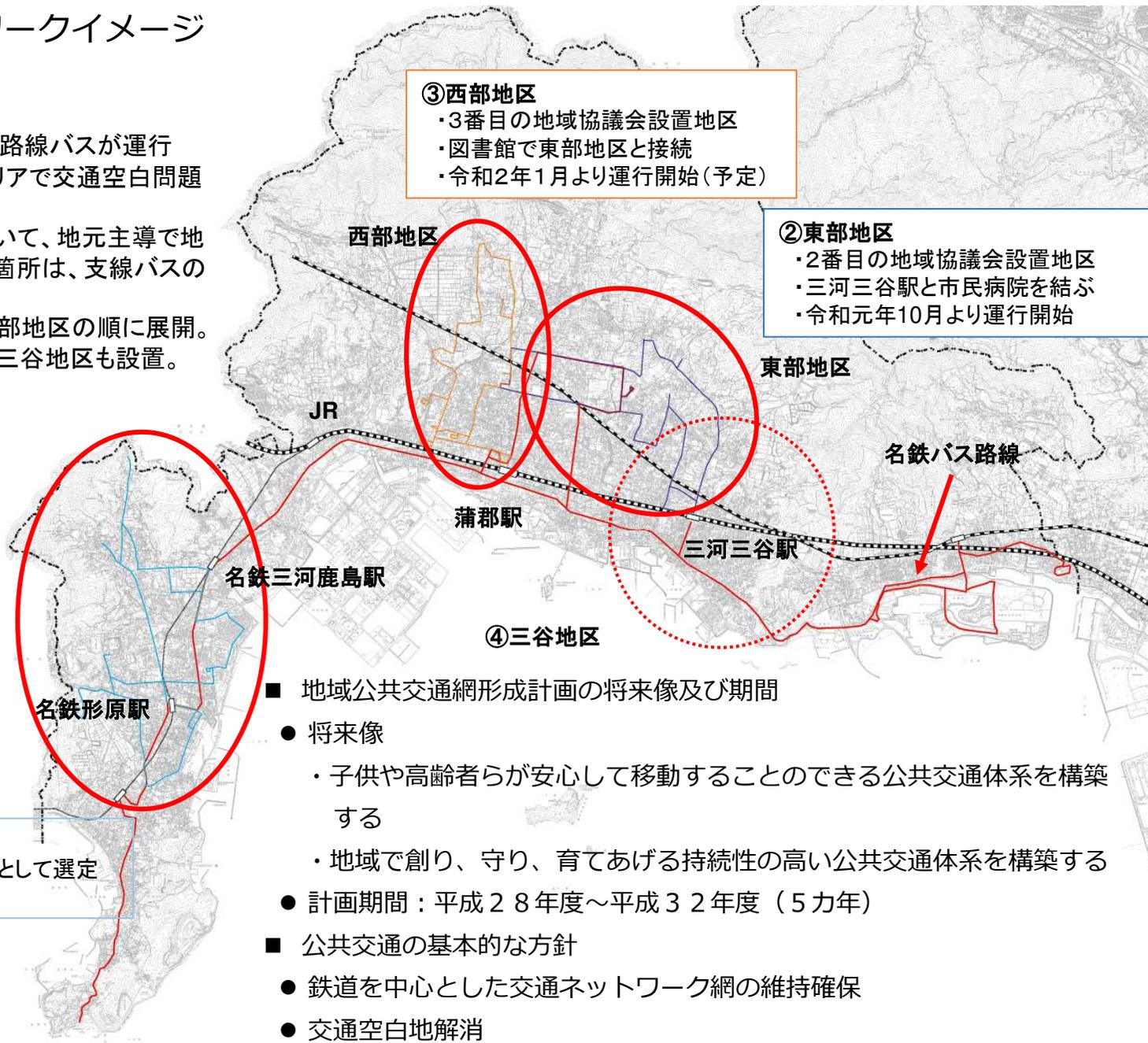
平成25年3月1日設置

フィーダー系統 平成30年6月20日 確保維持計画策定等

■ 公共交通ネットワークイメージ

蒲郡市全体の交通網

- ・平野部・臨海部に鉄道、路線バスが運行
- ・山間部を含むその他エリアで交通空白問題がある。
- ・交通空白問題地区において、地元主導で地域協議会が設置された箇所は、支線バスの検討・路線設置を行う。
- ・①形原⇒②東部⇒③西部地区の順に展開。
- ・令和元年11月現在で④三谷地区も設置。



③西部地区
 ・3番目の地域協議会設置地区
 ・図書館で東部地区と接続
 ・令和2年1月より運行開始(予定)

②東部地区
 ・2番目の地域協議会設置地区
 ・三河三谷駅と市民病院を結ぶ
 ・令和元年10月より運行開始

①形原地区
 ・交通空白対応のモデル地区として選定
 ・平成27年度より運行開始

- 地域公共交通網形成計画の将来像及び期間
 - 将来像
 - ・子供や高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系を構築する
 - ・地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系を構築する
 - 計画期間：平成28年度～平成32年度（5カ年）
- 公共交通の基本的な方針
 - 鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保
 - 交通空白地解消

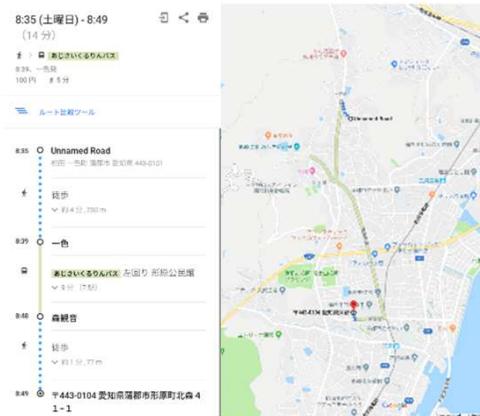
■ 目標を達成するために行う事業

※形原地区支線バス=フィーダー補助路線(交通空白)

網計画の目標	主な事業
交通ネットワーク網の維持確保・交通空白地解消	にしがま線(名鉄西尾線・蒲郡線)げんき戦略の推進、地域主導による地元協議組織の組成(形原・東部・西部・三谷地区)等
関係者間の連携強化	新たな支線バスの運行協議(東部・西部地区)、高齢者タクシー運賃助成事業等
持続性ある公共交通の確保	小学生乗り方教室、バス乗車体験、広告収入の確保、オープンデータ化(GTFS-JP)対応等

■ 今年度実施した主な取組

● 形原地区支線バスのGTFS-JP(オープンデータ化)



東部地区についても
R1.10~対応済み

● 形原地区支線バス 目標達成イベント



● 車体・バス停への広告



● 小学生等の利用促進



● 各地区での運行協議



■市の交通ネットワーク全体の評価【鉄道】

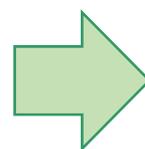
○ 目標：人口変動率対比で増加

H30年度目標値 = 3,360千人 H30年度実績 = 3,409千人 (0.5%増) **目標達成**
 (蒲郡線部分では、1,611千人、0.6%増)

※H30年の鉄道沿線人口 = 0.9%減少

○ 考察

- ・ 市民主体応援団（市民まるごと赤い電車応援団）等による利用促進活動の実施
- ・ 鉄道に接続するフィーダー系統である形原地区支線バスの利用促進



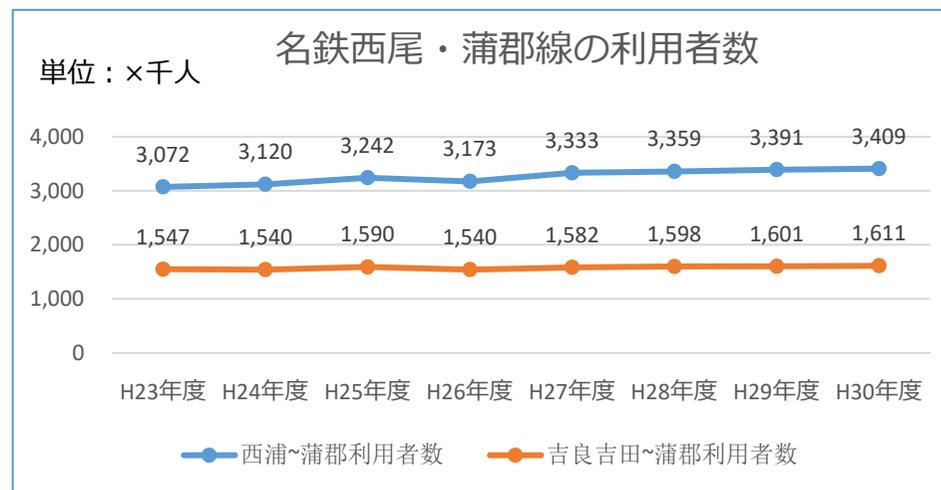
利用者は増加傾向



◀ 応援団ロゴマーク

○ 今後の方針

- ・ 沿線地域の人口減少を食い止める対応、鉄道の更なる利用促進、地域外からの誘客推進を図る



● 名鉄西尾・蒲郡線の利用推移

		H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
西尾~蒲郡	小計 (千人)	3,072	3,120	3,242	3,173	3,333	3,359	3,391	3,409
	前年との増減数		48	122	▲69	160	26	32	18
吉良吉田~蒲郡	小計 (千人)	1,547	1,540	1,590	1,540	1,582	1,598	1,601	1,611
	前年との増減数		▲7	50	▲50	42	16	3	10

■市の交通ネットワーク全体の評価【路線バス】

○ 目標：人口変動率対比で増加

H30年度目標値 = 188,129人 H30年度実績 = 163,808人 (13%減) **目標未達成**

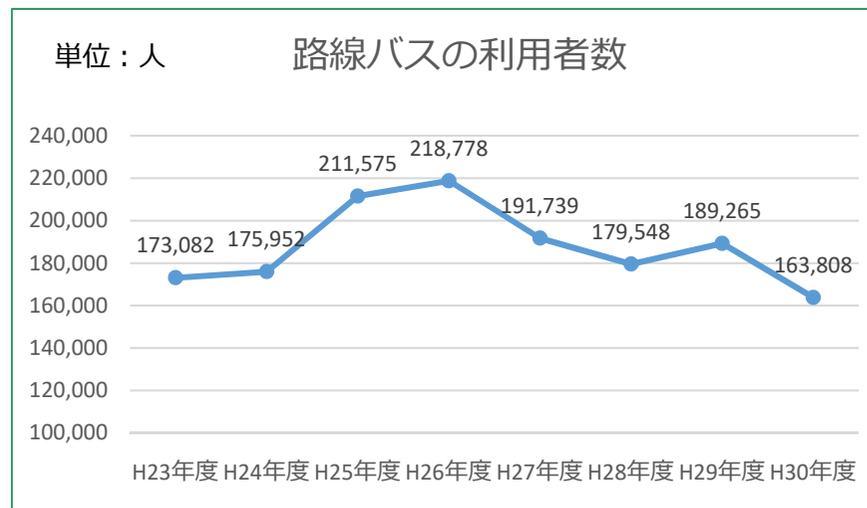
※H30年の路線バス沿線人口 = 0.6%減少

○ 考察

- ・平成26年11月の大型複合リゾート施設無料シャトルバス運行開始に伴い、東方面のバス利用者が激減
- ・平成27年4月、平成29年4月にダイヤ改正を実施し、利便性の向上および合理化を図るも利用者減は続く
- ・丸山・病院循環線（東方面）は前年比86.1%
- ・西浦・病院循環線（西方面）は前年比89.4%

○ 今後の方針

- ・新ダイヤの周知や事業者と共同した利用促進の取り組みを行う
- ・モニタリングを継続し、評価・改善に繋げていく



● 路線バス（市補助支援路線）の利用推移

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
小計	173,082人	175,952人	211,575人	218,778人	191,739人	179,548人	189,265人	163,808人
前年との増減数	-	2,870人	35,623人	7,203人	▲27,039人	▲12,191人	9,717人	▲25,457人
前年比	-	102%	120%	103%	88%	94%	105%	87%



■ ネットワークに接続する「フィーダー系統の評価」 (形原地区)

○ 目標：年間利用者数 = 5,150人 実績 = 5,124人 **目標未達成** (達成率99.5%)
 (生活交通確保維持改善計画にて目標設定)

○ 考察

- ・ 継続的な利用促進を図っているが、毎年多くの利用があるあじさいまつり期間の運行日が、今年度は天候不順が影響し大幅な利用減となった (この影響がなければ目標は達成できたと思慮)
- ・ あじさいまつり時の増便対応等は適切に実施。大幅な遅延、積み残し等の問題は生じていない

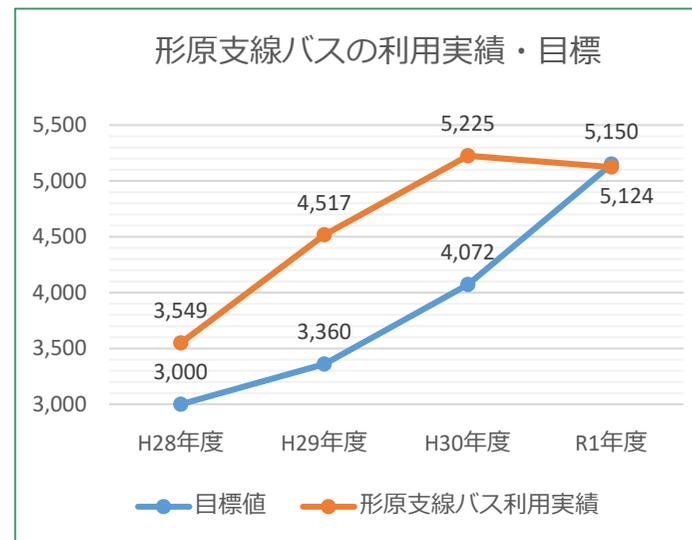
○ 今後の方針

- ・ 引き続き沿線住民と連携した利用促進を実施
- ・ 利用の少ない停留所の見直しを検討

● 鉄道 (名鉄西尾・蒲郡線) との接続

- ・ フィーダー補助路線である形原地区支線バスは、三河鹿島駅と形原駅で鉄道と接続
- ・ 2 駅 (停留所) のバス乗降者数は全停留所の平均を上回る

⇒ 鉄道 (名鉄西尾・蒲郡線) の利用促進に大きく寄与



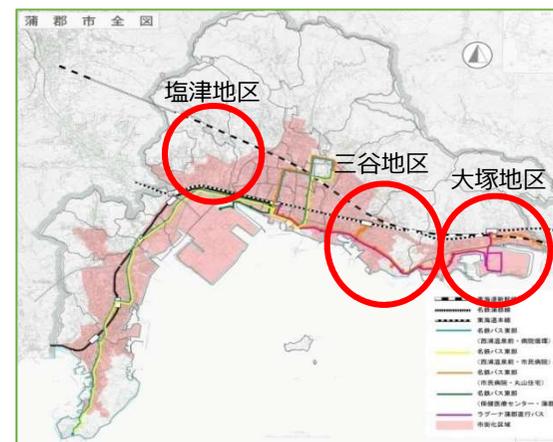
	三河鹿島駅バス停	形原駅バス停	全停留所平均 (参考)
乗降者数 (H30/4~H31/3)	303人	173人	159人

■ その他目標を達成するために行う事業について

指 標	目 標	平成30年度実績	評 価
地元協議組織の設置個所数	3箇所	3箇所	達成

● 交通空白地の対応

- 東部地区・西部地区で検討が進み、令和元年10月、令和2年1月に事業化。
- 令和元年10月31日に三谷地区公共交通協議会が正式に発足し、4番目の事業構築の議論が進行中。大塚地区・塩津地区などのその他地区での説明会の実施も並行して行い、さらなる交通空白地の対策が進んでいる。



● 公共交通利用促進事業→適切に実施

- 公共交通事業の推進にかかる行動『指針』の改定を行い、利用促進の重要性や収支率を含めた事業の総合評価の在り方について法定協議会で共有。
- 事業継続を諮る際には、形原地区公共交通協議会の取り組み（利用促進施策の実施、停留所標識広告掲載事業の実施による収支率の改善など）を確認し、地域の主体性を含め、総合的に評価することで、適切な事業継続をしている。
- 名鉄西尾・蒲郡線の利用促進イベントを実施し、鉄道の存続に向けた取り組みを継続して行っている。

<自己評価から得られた課題>

- ①鉄道 = 微増しているものの、沿線人口は減少中。利用促進の拡大、誘客推進が必要。
- ②路線バス = 利用者が減少。利用拡大に向けた取り組みが必要。
- ③交通空白地対応 = 新たな地域協議組織が組成される。事業化に向けた取り組みが必要。
- ④フィーダー（形原地区） = 初めて目標値を未達。利用者の固定化が懸念。新規需要開拓が必要。



<今後の取り組み>

- ①鉄道の対応
 - ・【通年】市民まるごと赤い電車応援団等による利用促進活動を継続実施。
- ②路線バスの対応
 - ・【通年】事業者と協議を行い、利用者減の食い止めと現行のサービス水準の維持を目指す。
 - ・【令和2年度中】公共交通マップの作成を検討。
- ③交通空白地対応
 - ・【通年】東部地区・西部地区での運行開始後のPDCAの実施による適正運行。
 - ・【令和2年度中】三谷地区での事業化を目指す。
- ④フィーダー系統の対応
 - ・【令和2年度中】複数のフィーダー系統の事業化をふまえ、相互利用を促進する施策（共通回数券・1日乗車券の導入、認知度を高めるPRイベント・乗車体験会等の実施）を検討し、実施を目指す。
 - ・形原地区・・・【令和2年3月】利用の少ない停留所の見直し、新規需要の開拓のための利用促進策（イベントツアー等）の検討等に取り組む。

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

蒲郡市地域公共交通会議

平成25年3月1日設置

フィーダー系統 平成30年6月20日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>○平成29年度二次評価 網形成計画の評価を行うための路線バス、支線バスの利用者アンケート調査を的確に実施しています。アンケートの調査結果を基にルート・ダイヤの見直しや利用促進策を既に協議しており、利用者の増加や収支率の改善につながれることを期待します。</p>	<p>前年度に引き続き、下記項目を実施</p> <p>○形原地区協議会の定期開催事業のモニタリング、事業改善・利用促進活動についての協議を地域主導で行う。</p> <p>○収支率改善のための対策 バス停留所看板の広告収入を得るための要綱を作成した。</p> <p>○利用促進活動 形原地区公共交通協議会の主導による下記活動を実施。 ・ぬりえ大会の実施等</p>	<p>○PDCAの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形原地区公共交通協議会にて利用促進に向けた取り組み内容を協議するとともに、定期的に事業評価を継続して実施する。 <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会で、ぬりえ大会の実施・年間5千人達成イベント等の利用促進策を含めた事業計画を企画・実施。 ・年度末の協議会で、利用実績や事業実施状況をふまえた事業評価の実施。 ・モニタリング結果を交通会議で報告。 ・利用者減の事実をふまえ、利用の少ない停留所の見直しと近隣地区のPR活動の実施、新規需要の開拓のためのイベントツアーの開催を検討。

※令和元年度 評価対象 (令和2年2月18日 愛知豊橋地区)

■ 鉄道の対応（市民まるごと赤い電車応援団等）

- 1) 利用促進大会（R1/11/9）
 - ・ 沿線生徒による意見発表
 - ・ 「にしがま線を描く会」の開催とその表彰
 - ・ 名鉄運転士なりきり写真撮影、グッズ販売など
- 2) 赤い電車応援！駅前コンサート開催（R1/11/17）
 - ・ 蒲郡市ジュニア吹奏楽団&市内中学校吹奏楽部の演奏、鹿島こども園の園児たちの踊りの披露
- 3) 赤い電車応援！各種部活動大会開催
 - ・ 沿線の中学・高校が部活動交流大会を通して赤い電車を応援（電車を利用して参集）

○鉄道：にしがま線の取り組み
利用促進大会（生徒による意見発表等）



駅前コンサート



部活動交流大会



■ 路線バスの対応

- 1) 小学校乗り方教室
 - ・ バスに関するクイズや乗車体験
- 2) 蒲郡まつりににおける乗車体験
 - ・ 制服での運転手体験

○路線バスの取り組み

小学生乗り方教室



蒲郡まつり乗車体験



■ 交通空白・フィーダーの対応

- 1) 東部地区公共交通協議会の取り組み
 - ・平成30年 8月21日 地区協議会設置
 - ・令和元年10月 1日 定時定路線型支線バスの運行開始
- 2) 西部地区公共交通協議会の取り組み
 - ・平成30年11月29日 地区協議会設置
 - ・令和2年 1月 4日 定時定路線型支線バスの運行開始
- 3) 形原地区公共交通協議会の取り組み
 - ・地区協議会の定期開催（モニタリング検討等）
 - ・市より特別感謝状の受賞
 - ・形原地区 3 保育園合同ぬりえ会の実施（R1/11/8）
 - ・年間利用者数5,000人の達成（記念品授与）
 - ・第14回モビリティ・マネジメント会議にて活動報告

○フィーダー：東部地区・西部地区の取り組み

東部地区出発式



大判地図

協議風景



MM会議での報告



○フィーダー：形原地区の取り組み

ぬりえ大会



5000人達成イベント

